

# JAJA REPORT

2022/2/28

vol. 2



*Place to belong for everybody.*

「ジャマイカに障害を持つ人たちの居場所を作りたい!」との思いから、地域で障害を持つ子供や大人がどのように過ごしているのかを調査するための家庭訪問を始めました。ケリーシアちゃんとお会いしてすぐ、彼女の愛らしい笑顔にたちまち惹きつけられました。

ケリーシアちゃんの父グリーンさんはシングルファーザーです。フルタイムの仕事には就いていませんが、その時恵まれた仕事に一生懸命取り組んでおられます。ジャマイカではグリーンさんのように短期的な仕事を繋いで生きている人たちがたくさんいます。正規雇用であったとしても収入が十分ではなく、サブビジネスを掛け持ちしている人がほとんどです。ジャマイカで生活するのに十分なお金を稼ぐのは容易ではありません。

ケリーシアちゃんにお会いした日、「彼女の障害は何ですか?」と聞くと、グリーンさんは「分からない」と答えました。お金がないため医師による診断(アセスメント)を受けておらず、障害名が分からなかったのです。アセスメントはあらゆる公的支援を受けるのに必ず必要な書類です。5歳になるケリーシアちゃんは本来今年度から学校に通う年齢ですが、アセスメントがなければ養護学校への入学を申し込むことができません。その旨をグリーンさんに説明し、彼らと共に管轄省庁へ出向きました。

省庁では当初「アセスメントを受けてからその他の支援を申請するように」と突き放されましたが「そのアセスメントを受ける費用が無いからこうしてお願いへ来ているのです。どうかお願いします」と懇願し、費用補助を受けることが出来ました! 障害児支援のルートに乗ることができたケリーシアちゃんは、私が帰国した後政府から車椅子をもらったそうです。

ジャマイカでは社会福祉がまだまだ整っていないとは言っても、制度が何もないわけではありません。情報が市民に届いておらず、十分に活用されていないのです。NPO法人LINK UP JAJAはジャマイカにある既存の制度を市民が最大限活用できるよう支援し、政府の支援が届かないところは法人として支援していきたいと考えています。

身体障害があり排せつや食事の介助が必要なケリーシアちゃんが養護学校に受け入れてもらえるかどうか、まだ分かりません。彼女の就学を実現するまで、長期的に支援していきます!

# 「全ての人に居場所を」



先日Hostel Chillaxで行われたイベント「ラガチャンライト×リンコップジャジャパネル展」で展示したケリーシアちゃんのパネルをプレゼントしました。弾ける笑顔!

Hostel Chillaxインタグラム @hostel\_chillax\_osaka



ユリさんと娘のタンデカさん

私たちは

ひとり

# 02

## Uley

半年ぶりにジャマイカを訪れ、わずか6カ月の間に起こったとは思えない急激な物価の上昇に衝撃を受けている。コロナの影響による経済的ダメージ後の急激なインフレを、ジャマイカの人たちはどう生き抜いているのか。NPO法人LINK UP JAJAと取引のある洋裁家Hubert Pinto愛称Uley(ユリ)さんに話を聞いた。

**夏美** まず、ジャマイカの魅力はどんなところでしょうか？

**Uley** ご存じの通りレゲエミュージックは私たちのバックボーンだ。ボブマーリーをはじめとする偉大なミュージシャンが、ジャマイカを世界の中でハイライトし、私たちの威信を取り戻してくれた。ジャマイカには素晴らしいところがたくさんあるよ。一度訪れたら帰りたくなくなるほど、ジャマイカは美しい場所なんだ。

**夏美** 半年ぶりにジャマイカを訪れて、あらゆる物の値段が上がっていることに衝撃を受けています。

**Uley** 石油価格の上昇、ジャマイカドルの下落によって、あらゆる物の値段が上がっている。ガソリン、食べ物、バス代・・・全部2倍だよ！

**夏美** 給料は上がっていませんね。最低賃金は未だに一週間7,000ジャマイカドル(約5,000円)のままです。

**Uley** 7,000ドルなんて何も買えやしない。一体我々ジャマイカ人がどうやって生き延びているのか、自分でも分からないくらいだね。

**夏美** 犯罪が増える背景には、経済的困難はもちろん、苦しさから解放される未来が見えないフラストレーションもあると思います。どうすれば状況が良くなるのでしょうか？

**Uley** 国が国民の教育や仕事の機会を保障して、みんなが経済的に自立できるようになる仕組みが必要だ。ジャマイカは美しいだけでなく、様々な可能性を秘めている。政府が正しい方向性で支援すればもっとたくさんの仕事が生まれるはずだよ。

**夏美** 私は人間の力を信じています。レゲエソングでもUNITY(人々が団結すること)について歌われ続けていますが、どうすれば人々が手を取り合って団結し、変化を生むことができるのでしょうか？

**Uley** 国民ひとりひとりが人権について学び、本当に必要なことが何であるかを知ることが必要だ。そうでないからジャマイカの人々は分断されている。

**夏美** やはり教育が鍵、ということになるのでしょうか。

**Uley** その通り。教育は高校程度のレベルまで無償であるべきだし、ジャマイカ政府はそれを保障するべきだ( Uleyさんはストリートチルドレンだったため、幼い頃は学校にあまり通えなかった)。

**夏美** ジャマイカの人たちはどんなに辛い状況でも生きている瞬間を楽しむことができ、その生き様こそがジャマイカの魅力であると常々感じています。ジャマイカ人のポジティブマインドやサバイバル精神は一体どこから来るのですか？

**Uley** 私たちは苦しい時でも自分たちを解放することができるんだ。レゲエミュージックの教えさ。ジャマイカにレゲエがなかったら、私たちはこんな風には生き延びてないだろう。

**夏美** ジャマイカで目にする搾取、貧困、差別などの問題は、ジャマイカに留まらずグローバルな問題です。日本にいる私たちにどのような事が出来ると思いますか？

**Uley** 国単位での文化交流が進めば、ジャマイカにある課題に気づいたり、疑問を持ったりする人が増えるんじゃないかな。そしてもちろん、レゲエや異文化理解を通して何かを学んだ個人が、関連した問題に対してアクションを起こすということは可能だ。

**夏美** 知り、共感し、繋がりを覚えるということがとても大切ですね。



# 「地球にも 人にも 生き物にも優しく」



アーティストであるカブさんのバックボーンについて教えてください。

もともとは大学、大学院でアートを学んでいました。日本では彫刻科、その後留学したイギリスでは3Dアート学科で学び、2013年にはイギリスの大学院でdesign interactionsという分野のデザイン学科で学びました。

日本ではどのような活動をされているんですか？

2003年に深沢アート研究所というアーティストユニットを立ち上げ、現在も活動を続けています。国内外でこどもを対象としたアートワークショップや作品展示を行い、特に空間を使ったインスタレーションワークを得意としています。

どのような経緯でハーブに取り組むようになったのですか？

イギリス留学時の経験から度々植物を扱うようになりました。植物の持つ生命力や特徴をテーマに空間作品の制作、庭作り、アート系NPOではグリーンとアートをテーマにした親子のグリーンコミュニティー作りのプロジェクトも行ってきました。

カブさんは2018年3月から約2年間、青年海外協力隊員としてジャマイカで活動されていましたよね。

配属先はジャマイカ知的障害者協会(JAID)で、花き栽培隊員として活動していました。協会の敷地内にあるグリーンハウスや畑で野菜づくりや苗作りの改善に取り組むと同時に、花き栽培の知識や技術を現地の同僚に伝授することを目標に活動していました。また、知的障害を持つ生徒が卒業後仕事に就けるよう、職業スキルアップの支援をすることも活動目標のひとつでした。



## KABU

JAJA会員

どのようなモチベーションで活動されていたんでしょう？

植物を扱う者として「地球にも人にも生き物にも優しい、現地に適した植物の栽培・環境作りをしていきたい」という強い理想を持って活動していました。「植物や地球を守る」と大きく掲げなくとも、植物の美しさを感じ、自分たちが暮らす環境を大事に思う心が芽生えれば、人にも自然にもやさしい環境作り、社会作りの実現につながると考えているからです。

青年海外協力隊の任期を終えた後、再びジャマイカに自力で戻られましたよね。どのような活動をされていたんでしょう？

2020年10月末にジャマイカに戻り、約1年間滞在しました。ジャマイカの人、土地、自然、文化、特にハーブと人の関わりに興味を持ったからです。アフリカにルーツを持ちながら、それでいてジャマイカオリジナルなハーブのメソッド、精神論、メディシンマン(ハーブで薬を作る人)のことが知りたくて、ハーブについて学び、活用ができなかりサーチしてきました。

アーティストとして今後の抱負などはありますか？

日々のちょっとした気づきを大事に、アーティストとして表現活動を続けていきたいと思っています。日本や外国での経験を踏まえて、自分のできることで子どもたちにも還元していきたいです。アートなセンスは日々の事柄を素敵にします。リアルな現実にプラスアルファなアイデア、ひらめき、ヴィジョンをくれるもの、夢やパワーを与えてくれるもの。次の世代である子どもたちに、そんな「美」の波動を伝えたいと思っています。

深沢アート研究所／緑化研究室／カブ\*u\*  
www.poppysnoopy.com  
www.hukalabo.com

# 04 1周年!



## Radio

# Ragga Channel Japan

リンコップジャジャの理事である、Bun Bun the MCが始めた全国を繋ぐレゲエラジオRadio Ragga Channel Japanが2022年1月に一周年を迎えました! 毎月各都道府県から選出されたレゲエサウンドが1時間のmixを届けます。音楽の合間に個性溢れる協賛店のCMが入り、リンコップジャジャも毎月協賛しています。Mix Cloudアプリから無料で聴けるのが嬉しい! 全国制覇の暁には面白いイベントも企画されるとか? 今から楽しみです!

Radio Ragga Channel Japan

[https://www.mixcloud.com/Radio\\_Ragga\\_Channel\\_Japan/](https://www.mixcloud.com/Radio_Ragga_Channel_Japan/)

NPO法人 リンコップジャジャ

# LINK UP JAJA

## 「繋がって、広がる」

"Mi Link Yuh Up Later!"

パトワ語で「後で会いに行く!」という意味の言葉。  
地球の裏側に住むジャマイカの人達とリンクして、通じ合う、  
そんな取り組みを目指しています。



Facebook : @linkupjaja

Instagram : @linkupjaja

Mail : info@linkup-jaja.org

LINK UP JAJA